



澄川乾燥野菜研究所 Sumi Lab

NPO法人
ezorock

2017~



活動紹介

防災 × 地域 = 乾燥野菜。毎年300名を超える澄川地区自主防災訓練を実施している、全国でも先進的な防災のまち、澄川。そんな澄川の更なる防災力向上を目指して乾燥野菜を作ります。乾燥野菜は軽い、長持ち、手間いらず。防災だけではなく、日常でも使い勝手が良い。そんな乾燥野菜を澄川乾燥野菜推進協議会とともに普及させていきます。



2017年総括

今年度、新規に立ち上げたプロジェクトチームです。澄川で乾燥野菜の製造・販売をおこなっている澄川乾燥野菜推進協議会と協力して事業を進めました。今年度は、澄川乾燥野菜推進協議会の事業の補助および乾燥野菜を使用したレシピ開発を行いました。次年度は、レシピのとりまとめ、その他、独自で活動を作っていくようにしていこうと考えています。(てる)

目的・背景

毎年300名以上が参加する自主総合防災訓練が行われるなど、澄川地区は全国的に見ても地域防災の先進地域である。一方で、2011年の東日本大震災では、被災者の避難時の食事が炭水化物に偏るなどの課題がみられた。この課題を解決するために設立された澄川乾燥野菜推進協議会は、長期保存が可能な乾燥野菜の製造・販売に取り組んでいる。本プロジェクトチームは、澄川乾燥野菜推進協議会と協力し、乾燥野菜の普及に取り組むほか、乾燥野菜を使用したレシピ開発などを行い、乾燥野菜がより身近なものとなるよう事業を展開する。

実施内容

活動・回数・参加人数
 ・澄川わくわく広場 12回のべ47名
 ・澄川ちょい飲み 2回のべ20名
 ・澄川地区自主総合防災訓練 1回 3名

ほか
 ・澄川わくわく広場参加者 836名
 ・乾燥野菜販売個数 1,200パック

成果

昨年度から開始したわくわく広場が **ボランティア(20代男性)** 通年で実施となり、多くの参加者に自分のいた地域ではこんな取り組みに対して乾燥野菜の普及をすることがは無かったので新鮮でした。切り干できた。また、わくわく広場、秋まし大根以外乾燥野菜は食べたことなつり等のイベントを通して1,200 かく、乾燥野菜を使った普段食べるパック以上の乾燥野菜の販売をする料理がこんなに美味しいとは思わなことができそうです。乾燥野菜の流かったです。通を作ることで、家庭での備蓄が進むと考えています。澄川乾燥野菜推進協議会会長 乾燥野菜を使用したレシピ開発も実日向寺 良子 さん 施しました。次年度はレシピを定期野菜を切ったり乾燥させたりの作業的に発信する機会を設け、乾燥野菜は、私達は手慣れたものですが、の有用性を広めて行けるようにしてPCを駆使しての情報発信、書類作成等々大いに助けていただいております。ezorockの皆さんの企画力、行動力で地域に活力を！期待しております！

声



販売している乾燥野菜



澄川地区自主総合防災訓練 レスキューキッチンでの豚汁作り



澄川わくわく広場の乾燥野菜料理



澄川ちょい飲み